

本書では、IBM WebSphere DataPower XC10 アプライアンスのインストール・ステップを要約し、このアプライアンスのヘルス状況の最も一般的な確認方法を説明します。この情報の最新バージョン、および完全なインストール説明については、インフォメーション・センター (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/wdpxc/v2r0/index.jsp>) を参照してください。

クイック・スタート: アプライアンス・ハードウェアの取り付け

アプライアンスの使用を開始するには、アプライアンスをラックに取り付け、アクセス用にアプライアンスを構成し、ユーザー・インターフェースを開始し、アプライアンスの作動状況を確認する必要があります。

始める前に

基本構成を定義する前に、以下の情報を収集してください。

- データ・グリッドに使用しているイーサネット・ポートは 1 ギガビットか、10 ギガビットか。すべて 1 ギガビットのポートを使用するか、すべて 10 ギガビットのポートを使用する必要があります。MGMT0 の管理ポートを接続します。
- イーサネット・インターフェースの IP アドレス (管理アクセス用とデータ・グリッドの使用のため)
- イーサネット・インターフェースのサブネットをサポートするデフォルト・ゲートウェイ (ルーター) の IP アドレス
- ネットワーク・サービス (SSH、Telnet など) の IP アドレス

インフォメーション・センターで、他のシステム要件を確認してください。

手順

1. アプライアンスを、ラックに物理的に取り付けます。

重要: アプライアンスのケースを、物理的に開かないでください。ケースを開けるとセキュリティ障害が発生し、アプライアンスが作動しなくなります。そのような場合は、アプライアンスを再製造のために IBM® に返却する必要があります。

- a. アプライアンスを慎重に開梱します。付属のすべての電源コード、シリアル・ケーブル、およびレールが同梱されていることを確認します。
- b. ラック内の取り付け位置を特定し、通気とアプライアンス保守のための十分なスペースがアプライアンスの上下にあることを必ず確認してください。
- c. 取り付けレールを固定します。
- d. アプライアンスをレールに取り付け、アプライアンスをスライドさせて所定の場所に挿入します。
- e. アプライアンス前面から、ネットワーク・ケーブルを使用してアプライアンスをネットワークに接続します。MGMT0 ポートに接続する必要があります。1 ギガビットのポートまたは 10 ギガビットのポートを使用してください。イーサネット・ケーブルは提供されていません。
- f. 提供されている電源コードを使用して、パワー・サプライを電源コンセントに接続します。
- g. シリアル・コンソールから、デバイス前面の CONSOLE コネクタに接続を確立します。この接続は、9600 ボー 8N1 (1 文字あたり 8 ビット、パリティなし、1 ストップ・ビット)、フロー制御なしで構成してください。この接続には、付属のシリアル・ケーブルを使用します。ご使用のシリア

ル・コンソールにシリアル・ポートではなく USB ポートのみが付いている場合は、USB シリアル・アダプターまたはケーブルを使用してください。シリアル・コンソールで推奨される端末エミュレーションは、VT100 です。

- h. 電源ボタンを押します。緑色の電源 LED ライトが点灯し、シリアル・コンソールが表示されます。
- i. ログイン・プロンプトが表示されます。アプライアンスの初期構成の場合は、ユーザー ID とパスワード (xcadmin/xcadmin) を使用してログインします。

重要: xcadmin のユーザー ID とパスワードは、紛失しないようにしてください。この情報を紛失すると、アプライアンスに再びログインすることができず、再製造のためにアプライアンスを IBM に返却する必要があります。この際、アプライアンス上のすべてのデータが消去されます。xcadmin のユーザー ID とパスワードに確実にアクセスできるようにするには、xcadmin パスワードをリセットできるように、SMTP サーバーと E メール・アドレスを構成することを考慮してください。

2. シリアル・コンソールを使用したアクセスのために、アプライアンスを構成します。ご使用条件への同意およびイーサネット・ポートの構成のプロセスは、ウィザードがガイドします。
3. アプライアンスのファームウェアを最新バージョンに更新します。詳しくは、インフォメーション・センターにあるファームウェアの更新に関するトピックを参照してください。
4. start-progress コマンドを実行して、ファームウェアのアップグレード後のアプライアンスの始動プロセスをモニターします。このコマンドで STARTED が返された場合、このアプライアンスは使用する準備ができています。
5. ユーザー・インターフェースを開始します。
 - a. Web ブラウザーのアドレス・バーに、デバイスの初期設定時に定義された URL およびポート情報を入力します。定義した IP アドレスか IP アドレスに対応するホスト名を使用することができます (例えば <https://myXC10.ibm.com>)。セキュアHTTP プロトコル (HTTPS) を使用してください。
 - b. 「ユーザー (User)」フィールドに xcadmin と入力します。
 - c. 「パスワード (Password)」フィールドに、対応するパスワード (初期設定は xcadmin) を入力します。
 - d. 「ログイン (Log In)」をクリックします。ログアウトするには、「ログアウト (Log Out)」をクリックします。

「ようこそ (Welcome)」ページが表示された場合、ローカルの xcadmin アカウントの認証は正常に完了しています。

6. アプライアンスの作動状況を確認します。
 - アプライアンス前面にある緑色の電源 LED ライトが点灯しています。
 - アプライアンス前面にあるオレンジ色の障害 LED ライトが点灯していません。
 - アプライアンス前面にある緑色のキャッシュ LED ライトが点灯しています。
 - アプライアンス前面にあるオレンジ色のキャッシュ・エラー LED ライトが点灯していません。
 - アプライアンス前面の液晶ディスプレイ (LCD) に、製品のリリースおよびビルド・バージョンが表示されています。

上記の各ライトのアプライアンスにおける位置を表す図については、インフォメーション・センターにあるハードウェア仕様に関するトピックを参照してください。ご質問がある場合は、IBM Support にご連絡ください。http://www-947.ibm.com/support/entry/portal/overview/software/websphere/websphere_datapower_xc10_appliance にアクセスしてください。